

28, 2007 00:16

第3款市民費の市民生活費のうち交通安全対策事業の予算に関して、お伺いいたします。

昭和40年代、車の普及に伴い交通の利便性が急速に発展したことから、交通事故件数、死亡者数ともに急増し、第1次交通戦争といわれるような時代をわれわれは経験したのであります。それからこれまでの間、交通事故の減少と死者数の減少に向けて官民上げて取り組んできたわけであります。多賀城市の高校生を巻き込んだ事故や福岡市のRV車の事故など飲酒運転根絶の機運は高まっておりますが、近年死亡事故が全国的に減少してきたということもあり、また、長年行われてきた交通安全運動に対する慣れもあるせいか、交通安全そのものに対する関心が市民の中でも薄れてきているように感じております。昨年11月の市民教育常任委員会で第8次仙台市交通安全計画の概要について報告がありましたが、その報告によりますと、仙台市におきましても確かに死者数は減少傾向にあるとはいえ、平成17年1年間に交通事故で失われた人は41人にのぼっており、また、交通事故件数は毎年過去最高を更新し続けているのであります。

私は、こうした市民の命にかかわる交通安全対策について何らかわりなくと申しますか、むしろ事故件数が増加していることを踏まえ、これまで以上の取組みが求められるものと考えており、その観点から以下お伺いいたします。

1 まず、交通安全対策事業には様々な事業があるとは思いますが、交通安全対策の総括という視点から市民費に計上されている交通安全対策事業について、その内容と平成16年度から平成18年度までの予算の推移、そして平成19年度の予算についてお伺いいたします。

〔答弁の要旨〕

事業の内容でございますが、春・秋の全国交通安全運動や幼児及び高齢者向け交通安全教室の開催、違法駐車防止対策などの総合的な交通安全対策事業や交通指導隊の運営、交通事故相談、八木山・川内地区GW交通渋滞対策事業などとなっております。

また、これらの事業予算についてでございますが、平成17年度は約9,700万円、18年度は約9,200万円、19年度は約8,700万円となっております。

2 ただいまの答弁によりますと、毎年予算が減少しているようでありますが、これで十分な交通安全対策が図られるのか不安になります。どのようにお考えなのか、ご所見をお伺いいたします。

〔答弁の要旨〕

交通安全対策の事業費につきましては、厳しい財政状況の中ではございますが、交通安全に関する各種研修会の開催方法や八木山・川内地区ゴールデンウィーク渋滞対策における広報宣伝手段の見直しなどを行い、また、各区にあっては地域住民との連携をなお一層深めた対策を取るなどして、効率的かつ効果的に事業を運営するよう努めてまいったところでございます。

今後とも、様々な工夫を凝らしながらより効率的で効果の高い交通安全対策を推進してまいりたいと存じます。

3 次に交通安全対策の各区の取組み状況についてお伺いいたします。

〔答弁の要旨〕

春・秋の全国交通安全運動などの交通安全普及啓発活動を行っておりますほか、各地区交通指導隊により、街頭指導、児童・生徒の登下校時の安全確保、小学校の交通安全教室への協力などを行っております。また、全ての区が暴走族根絶促進モデル地区に指定されており、暴走族根絶に向けた取組みを行っております。

さらに、地域住民から信号機や横断歩道等の設置、あるいは交差点の改良や歩道の拡幅等の道路整備について要望があった場合には、各区で設置している交通問題対策委員会においてその必要性等を審議し、県警への要望や道路整備の内容等を協議しております。

4 交通安全対策は、全市的に取組むべきものと各区の交通事情に合わせて各区が予算の執行権限も含めて独自に取り組む方が効果があるものと考えますが、各区との連携のあり方も含めてご所見をお伺いいたします。

〔答弁の要旨〕

交通安全対策に対する取り組みについてでございますが、全市的に一斉に取り組んだ方が効果が高い取り組みもあれば、議員ご指摘のように、各区が地域住民あるいは所轄の警察署と連携を深めながら、取り組んだ方がいい事業もございます。

交通安全は、地域住民や学校、警察、交通安全関係団体など幅広い方々による広範な取り組みにより実現できるものであり、地域と一番密接な関係にある区の役割はますます重要なものになってくるものと考えております。今後の交通安全対策の実施にあたりましては、こうした点を踏まえまして、なお一層効果的な対策を推進してまいりたいと存じます。

5 最後に市長にお伺いします。市長は常日頃市民が安全で安心して暮らせる社会を実現することは街づくりの基礎であるとおっしゃっていますが、これは何も犯罪の予防に関するだけでなく、極めて身近な交通安全という観点からも大変重要なことであると思いますが、今後の交通安全対策についてどういうお気持ちで取り組まれる考えなのかお伺いします。

〔答弁の要旨〕

仙台市における、交通事故の発生件数はおおむね増加の傾向にありまして、交通事故は市民生活における「安全安心」を脅かすものであり、総合的な対策が必要であると認識しております。

交通事故は、被害者だけでなく、加害者やその双方の家族にまでも精神的・経済的な苦痛を与えるものであり、また、被害者も、特定の世代ではなく、各世代に渡っておりますことから、その対策につきましては市民一人ひとりが身近な問題として取り組む必要があると考えております。

このたび策定いたしました「第8次仙台市交通安全計画」を着実に実行に移し、交通事故のない誰もが安全で快適に暮らすことの出来る街づくりを目指して、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、より効果的な施策を一層強力に推進してまいります。